翠巒体育

No.23 2004.6.25発行
群馬県立高崎高等学校 翠巒体育会報
http://www5.wind.ne.jp/t2suiran/

新会長に高橋氏就任

高橋 浩生
（たかはし ひろお）
バレーボール部
78期

《就任のご挨拶》

楽しく、仲良く、強く

翠巒体育会は、高崎高校運動部を後援し、会員相互の親睦を図ることを目的とし、昭和48年発足し、初代会長國峯善次郎氏（50期サッカー部）、第2代会長岩田武雄氏（53期バスケット部）、第3代会長山口正敏氏（58期卓球部）の下に各運動部OB各位の御協力によりその歴史を創ってまいりました。そしてこの度、第4代の翠巒体育会の会長をお引き受けすることになりました私は、バレーボール部で78期の高橋浩生です。

私と翠巒体育会との出会いですが、平成5年にバレー部安中隆一先輩(65期)から突然銀行通帳を渡され「これから、バレー部OB会のことは任せたから」という一言から全てが始まりました。それと同時に、翠巒体育会の理事となり、翌年からは、私の職業が税理士ということで翠巒体育会の会計をお引き受けすることになりました。この時点から翠巒体育会との関わりが本格的になったわけです。

今回会長をお引き受けするに当たりましては、前会長の山口正敏先輩と私とは高高で20期の開きがあります。この20期の間には、当然私よりも翠巒体育会の会長にふさわしい方が大勢いらっしゃいます。また、私の中では「高高の真の同窓生とは、幹事期を済ませてからが本当の高高同窓生である」と定義付けていましたことから、お声を掛けていただいただけで大変光栄なことでありますが、自分では役不足であるとお断りしておりました。しかしながら、翠巒体育会の先輩方からバレー部OB会から、そして、78期の同期生からも全面的に応援すると言っていただいたので「よし、やるぞ！」と就任を決意したのでありました。

現在の高高は凄い。大学の現役合格率はここ数年90%前後であります。また、運動部の新入生の加入率は、70%近いものがあり、平成15年度の群馬県高校総体では総合第2位に輝いています。文字通り、文武両道のスーパーハイスクールです。私の高高時代を振り返ってみますと、中野敏宗校長の指導の下で随分ゆっくりと楽しく高校時代を過ごさせてもらえました。その頃の高高は、生徒が「高高は4年制で3年間自由に過ごした後4年目に勉強して大学に行こう！」と言っており、随分のんびりした雰囲気でした。そんな訳ですから大学現役合格率は40%程度。文武両道と言っておりましたが、文の人と武の人が仲良く同居している。そんな感じでした。

私はといえば、武の人で、思う存分バレーボールをやらせていただきました。お蔭様で、当時目標であった「春の高校選抜大会（いわゆる春高バレー）」に出場することが出来ました。1回戦は、長野国体強化チームで信越代表の強豪岡谷工業。苦戦の末これを撃破し、ベスト16まで進み、ベスト8を賭け南関東代表の藤沢商業。藤沢商業は当時「せこいバレー」といわれていたのですが、この名称とは裏腹の緻密なバレーに翻弄されてしまい、ベスト8には進めませんでした。（結局、この大会藤沢商業が優勝）現在バレー部の歴史の中で全国大会には3度出場しておりますが、春高バレー出場は、自分達の代だけであり、しかも、我々の残した全国ベスト16がバレー部の最高の記録となっております。

この全国大会に出場したことが、私の現在迄における翠巒体育会や同窓会、そして、OB会活動の根源となっております。全国大会出場に際しては、本当に多くの先輩方より物質的、金銭的、精神的にご援助をいただきました。このときの自分の気持ちは、翠巒体育会会報誌第5号に掲載されております。今読み返すと少々恥ずかしいのですが、高校生の自分の当時感じた率直な気持ちが稚拙な文章の中に思い切り込められております。

私にとってのOBの定義は「自分がしてもらったことを後輩にしてあげ、自分がしてもらいたかったことを後輩にしてあげる」ということです。この様な定義付けが出来たのも先に述べた通り、高校時代に多くの先輩方から様々な財産を戴いたからであります。

その後、大学でも体育会バレー部で主将を務めた後、群馬に戻ってからは、仕事の傍らバレー部OBで結成されている翠巒クラブにてバレーを楽しんでおります。翠巒クラブは、昨年までで通算14回群馬県代表として全国大会に出場しており、全国大会出場に際しては、翠巒体育会から多くの援助を戴いております。

山口前会長は就任に当たり、翠巒体育会の財産の充実を挙げ、見事にこれを成し遂げました。私は就任に当たり、表題の「楽しく、仲良く、強く」を掲げます。

「楽しく」とにかく楽しさを最優先にしたい。翠巒体育会の行事は決して多いものではありません。それだけに開催される行事では顔をあわせること自体が楽しいものにしたいし、一歩進ませ、楽しいから集まるのだという会にして行きたいと思います。

「仲良く」私自身は、翠巒体育会のお陰でバレー部以外のOBの方々と大勢知り合うことができました。この様な体験を会員の皆様にして欲しい。OB会組織は単体の活動になりがちですが、翠巒体育会を通しマトリックス組織として、会員相互を仲良く結び付けたいと思います。

「強く」山口前会長は、その就任期間に翠巒体育会が経済的に強くなることに御尽力されました。私の掲げる「強さ」も経済的強さにほかなりません。高高時代に運動部に所属したということは、運動そのものを楽しむことのみならず、体力、気力の向上、円満な人間関係や友情の育成、思いやりや規律ある生活習慣の習得等々その効果を挙げるならば枚挙に

遑がありません。高高で運動部に所属していた我々は、自然にこの様な資質が備わっております。また、「同じ釜の飯を食った仲間」ならでは分かり得ない何かがあります。私は、翠巒体育会を通じ、楽しく、仲良く会員全員が結びつき、互いが互いを向上させ、一人一人が社会において経済的に強くなれればと考えております。

斯く言う私は、高高同窓会においても社会的にも未だ若輩者であります。翠巒体育会の会長と申しましても、何か翠巒体育会の会長は、顔に迫力無ければ駄目だそうで、そんな風貌から来る期待感から選出していただいただけであります。皆様方の御助言、御指導、御鞭撻無くしてはとてもこの任務を全うできません。翠巒体育会会員全員が楽しく、仲良く、強くなり、翠巒体育会をより充実させ、後輩高高生や各OB会組織にもっと多くの援助をしてあげられる様になりたいと思います。どうかお力をお貸し下さい。よろしくお願い致します。

新校長赴任

【 新任のご挨拶 】

校長
栗原 健

高高の力

この度、小林校長の後任としてお世話になることになりました栗原と申します。何卒宜しくお願いいたします。

着任早々の新任式では、「今一番光っている学校は高高である。これまで外から見ていて、勢いのある、骨のある学校というイメージを持っていたところであり、実際にこの高高で生徒諸君と共に過ごし、誇りと気概をもって学校づくりに邁進できることは本当にうれしいことである。学校では、群れて学ぶこと、すなわち一体感を持って学ぶことが大切であり、高高の更なる発展を期して、より高い、より強い学校にしていきたい。共に頑張ろう。」と、生徒を前にして初めての挨拶をしました。また、それに続く始業式では、「学校というところはその学校が醸し出す雰囲気、そこに流れる空気が大事であり、それらは生徒諸君が学校生活に取り組む姿勢や学校の実績、学校のたたずまい等で創られていくものである。学業に精励し、部活動で心身を鍛えること、すなわち文武両道を貫くことが高高たる所以である。高高生が陥ってはならない点は、やるべきことをやらない怠惰な生活、時間の浪費、乗り越えなければならない苦難・困難という現実からの逃避である。」といった話をしました。これらに対して耳を傾け、真摯に聴こうとする生徒の態度は極めて健全であり、その様子から、人としての基本的な姿勢が学校全体の中でしっかりと培われてきていることを実感した次第であります。

文武両道が伝統男子校の真髄であり、高高がこれに大きな価値を置いていることは紛れのないところでありますが、一方ではこのことを実践し、それ相応の結果をもたらすことは容易でないことも周知のとおりであります。このように、文武両道の実践には多くのエネルギーや情熱を必要とし、様々な苦労が伴うことも多いわけですが、それだけにそれぞれが目標とする結果を獲得した際の満足感、達成感は何ものにもかえがたいものがあります。だからこそ、やり甲斐や挑戦する価値があり、高高がこだわっているのもそのためです。これからも、高高の明確な特色として堅持していかなければなりません。

高高の文武両道は決して妥協に甘んじることなく、ハイレベルのところに目標を設定し、常に攻めの姿勢で取り組むことに重要な意味を持たせており、そのことが高高の大きな力となって着実に成果を生み出す基盤となっているものと確信しています。いわゆる勉学と部活動の両立のためには時間的にも、体力的にも、さらには精神的にも相当の努力、踏ん張りが強いられますが、それらを実行してこそ最終的な栄冠がもたらされるのは確かなことであり、そうした状況はこれまでに多くの先輩諸氏が見事に実証しているところであります。この事実は、すべての生徒が肝に銘じておかなければならない点だと考えます。

「健全なる精神は健全なる身体に宿る」という名言がありますが、これはローマの詩人ユベナリスの『風刺詩』から出た言葉であると言われています。いかなる状況下であっても、身体が健康であれば、精神もまた健康であるということ、すなわち何事も身体がもとであるということは万人が認める普遍の原則です。肉体と精神は表裏一体をなすものですが、この重要性を踏まえると、特に心身の成長途上にある青年期において健康な身体づくりに進んで取り組むことは疎かにするべきではありません。健康な肉体が保持できなければ、何事も成就は叶わないことは自明であります。毎日、溌剌とした新鮮な気持ちで勉学と部活動に専念できるだけの体力、そうした取り組みを通じて湧き出てくる「やるぞ！」という意欲・ねばり強い持続力の源である気力、これらなくして学校生活を魅力あるものにするのは難しいことであります。

このような心身の訓練・鍛錬こそが運動部活動が持つ最大の意義であり、目標の一つでもあるわけです。従って、各運動部が活躍することによって高高の力は必然的に高められ、そうした中から生徒諸君が自信と責任を持って学校生活を謳歌する空気が醸成されることになります。さらには、学校への帰属意識や学校への愛着も強まり、生徒全員が一丸となって学校を盛り上げていこうとする活力・迫力が生まれてくることになります。こうした意味から、これらの点は3F精神と共に、しっかりと受け継ぎ、継承していかなかればなりません。

こうした運動部活動に見る高高の力は、県高校総体での優秀な総合成績や前高との定期戦の圧勝等に象徴的にあらわれており、いずれの部も傲ることなく常に前向きに取り組んでいる結果と言えます。その背景には各運動部の活躍を期待し、温かく見守り、激励していただいている翠巒体育会の皆様のお力添えがあるからであり、ここに改めて深く感謝申し上げる次第です。今後とも、翠巒体育会の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げ、新任の挨拶とさせていただきます。

特別寄稿

永井　功
応援部　前OB会長
（65期）

心の熱い男がいた、本校69期（昭和45年卒）植原政明君。本校世界史の教師として在職中、昨年病で亡くなられた。葬儀には、先輩、同窓、教え子、そして応援部の若いOBまで大勢会葬してくれた。

亡くなる、4ヶ月程前、応援部OB会の打ち合わせで、本校をたずねた。北側駐車場に車を置き、ドアを開けたら授業中の彼の声が2階から降ってきた。「ああ、植原元気になってよかった」と思った。あってみたら顔色がわるかった。そのことにふれたら、彼は、病のことには何も言わず、「先輩、仕事どうですか」と逆に心配してくれた。

大きな目を開き、いつも腹の底から声を出す、そんな男だった。

応援部の顧問として、活躍してくれた。合宿所の食堂で、大声で現役応援部員と話す姿が目に浮かぶ。

見かけによらず、授業にも熱心で、伊勢崎市内の高校に在職当時、教え子に世界史での全国コンクールでの優勝をもたらしたことがあると聞き、「お前は声がでかいだけだと思っていた」と言ったら、「自分も課外授業だけではないですよ」と言われてしまった。

父上も、高崎広域圏の水利権を監督する立場にあり、それにふさわしい実のある方である。母上、夫人、二人のお嬢さん、皆さん気丈でしっかりした方々だが、彼が逝かれたことは察するに余りある。

その植原家遺族の皆様から本校に、多額のご寄付をいただいた。それが、本校応援部の新しい団旗として平成16年1月の同窓会総会の壇上に現れた。

大きすぎて、会場の壁にあまり、どのように掲揚しようかと、係りを困らせるほど大きく、見事なものだった。

植原家遺族の皆様に感謝申し上げるのはもちろん、彼のこだわった応援部の象徴としての団旗を作ろうと決断してくれた学校当局にも敬意を表したい。

植原先生の魂よ、やすらかに。

久保田啓樹
応援部
2004年3月卒
（103期）

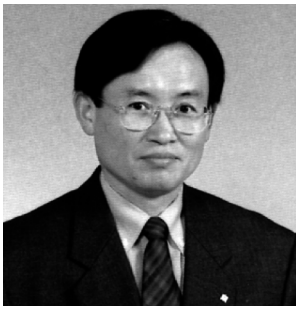
私と植原先生との出会いは、高高の合格発表の日。私の父と植原先生とが知り合いであり、高高生活3年間、しっかり頑張るようにと声を掛けていただきました。

そして、應援團の顧問ということもあり、應援團員の何たるか、應援團のあるべき姿とそれぞれの持つべき自覚について、いろいろ教えていただきました。残念ながら、私の代の定例リーダー公開祭を見ていただくことはできませんでしたが、植原先生の下で應援團員になれたことを嬉しく思っています。

應援團を離れた学校生活でも、様々なことでお世話になりました。

私の生徒会長の仕事を手伝ってくださったり、それに対する指針やアドバイスもいただきました。そして、勉強や受験、さらに将来のことに対しての助言も多くいただきました。受験のスペシャリストということで、その言葉は少し乱暴な部分はありましたがいつも的確で、勉強や受験に本当に頼りになりました。私は植原先生の世界史の授業を実際に受けていませんが、それを受けた友人に聞くと、怖いけど理解しやすくて熱心であったと言っていました。植原先生は、生徒と体を張ったコミュニケーションをとっていて、中には煙たがる生徒もいました（確かに痛かったです）が、積極的に生徒とコンタクトをとる姿は見習うべきところだと思います。

教育に対する心構え、生徒に対する厳しさと優しさ、そして高高に対する愛情の素晴らしいものを持った植原先生が、まだお若いにも関わらずお亡くなりになられたことに、心より残念に思っています。今現在、将来に対して漠然とした不安を持つ私は、植原先生の鋭い見解があればどんなに心強いことだろうと思います。しかし、植原先生と関わった全ての人に受け継がれた植原先生の熱い心は、現在でも、そしてこれからも生き続けることでしょう。
植原先生、ありがとうございました。



頑張れ
高崎高校柔道部
目指せ日本一

祝 第52回 関東高校柔道大会 個人戦・団体戦出場
平成16年6月5日(土)・6日(日)　横須賀市総合体育館
高崎高校 柔道部 OB会　会長 関口　茂樹（63期）

青春の絆 山岳部

KIZUNA　國峯善次郎（50期）

雑感

上州の山々に残雪残る五月十六日、富岡市の山野草展、しゃくやく畑、安中市のジャーマンアイリス園を見学、夕食を松井田町行田の「田舎や」で天ぷらうどんを食べ帰宅する。

女房とのぶらり旅も、主催する団体旅行も海より山の方向に、眺める山々に其の思いを懐古する。

過日、忙しい話だがと前置きに山岳部役員松本基志君が来宅し、初代の深井氏が多忙故に原稿依頼を伝える。時間の餘有がないので御受けした。

創部期一年先輩に深井、小渕氏、同期に長野君、後輩は大勢の岳友で発足、51期の塚越君宅（白井屋旅館）での会合、「山小舎」の創刊、年間の事業計画の相談があった。

私はサッカー部に所属して居たが、長野君に誘われ客員部員として温かく迎えられ、今もって諸兄に感謝して居る。

現役時代の日光白根、北ア縦走、八ヶ岳、表・裏妙義、卒後間もなく谷川岳、白馬、針の木岳の思い出が数多く心に残る。

初回昭和二十三年、日光白根を目指し鎌田から徒歩で丸沼一泊、無断でボート小舎で泊まる。夜中管理人に「こっぴどく」叱られた。懐かしさもあり昨年十一月四日ドライブで五十数年振りに湖畔を訪れる。すっかり整備された湖の端での一服、感無量、近くには県民大会が行われる丸沼スキー場も造成され、長生きして良かったと只々往時を回想する。

自分の人生として生涯の友人として思って居た長野純信君も三十年前、四二才で他界。白馬岳、五龍岳、鹿島槍ヶ岳、針の木岳縦走に出掛けたのが昭和二十八年頃だったと思う。台風がらみで白馬から杓子岳を通過、白馬鑓に来た時は風雨強く成り、途中下山する事に成り、日本最高位地にある白馬鑓温泉の湯舟を見乍ら下山、大町一泊、天候も回復し針の木を目指す。八月末扇沢にある山小舎は店閉い最中。針の木岳一泊し帰途につく、今ここは大町アルペンライン、黒部ダム観光道路と一変してしまった。

お互い前途ある独身時代、何を語ったかは憶えて居ない、これは二人の絆がこんなに早く終わる事を予知して居なかったためだろう。

長野君の奥さんも彼の没後間もなく他界し長男夫婦が子供達と箕郷町長純寺住職を勤めて居る。

さて山岳部史に依ると、OB諸氏の山行記録も幾多に及び紹介されて居り、食糧難時代、物資不足の創部期からの距離は益々開いて来て居る。しかしこれが時代の変わりであり、そこで活躍して居る諸兄の話を聞くに、強く心に残るのはあの創部期に拘われた喜びである。

現役諸君も伝統を受け次ぎ頑張りを見せて呉れ感謝の気持ちで一杯だ。二年前だろうか、高崎市での国体選手壮行激励会に現役二名の名前を発見。自身大喜びし、周囲の来賓にも自慢して見せた。以来高校総体記事の山岳部欄も他部同様注意して居る。忘れてはならない事は顧問先生の指導の有難さである。

今後更にOB会の結束と現役の後援を思う時、会員名簿の再点検が必要と思う。五十一期の藤川洋君、倉林要君は共に高崎市役所の部長経験者であり、面倒見の良い増田君も名簿から漏れて居る。勿論長野君も故人扱いでも良いから仲間に入れて置いて欲しい。

会則の設定、年会費の徴集、定期的な集まり（少なくても年一回の総会開催）現役の援助、役員の選出、翠巒体育会の出席等々山岳部OBの絆を結ぶ仕事は山積されて居る。

KIZUNA　小池純司（72期）

パイオニアワーク　創造の喜び

原稿依頼を受け、高高山岳部40周年記念誌「山小舎」を改めて手に取る。

同好会より発した山岳部は、昭和23年頃より活動が活発になり、昭和29年に運動部として認められた。顧問は、高橋信男先生、大塚嘉彦先生。「信さん」が愛称だった高橋先生は、29年間顧問としてどの部員からも慕われる人格者で、素晴らしい指導者だった。又高高卒業後、東大スキー山岳部でカラコルムの名峰バルトロカンリ（7312m）遠征等で活躍していた関章司氏が、良き指導者の一人だった。

そのような指導者がいる恵まれた環境の中で、山岳部は、妙義山、尾瀬、奥日光、谷川岳、北アルプス、浅間山で、数々の足跡を印て行った。山岳部として初めての北アルプスの稜線、槍ヶ岳から燕岳までの縦走を行ったのは、昭和24年8月、リーダー深井以下4名のパーティーだった。自前の登山用具、食料も切符の調達もままならない時代の中で、高高山岳部にとっては先駆的な登山だった。昭和26年夏には、白馬岳から鹿島槍ヶ岳までの縦走の記録がある。

谷川岳東面の岩場、南面の沢にも記録が残されている。昭和27年マチガ沢、幽の沢の遡行にはじまり、毎年マチガ沢、一の倉沢のルンゼや岩稜、南面オジカ沢等に、新しいルートを開拓していった。OBとの合同山行であるが、昭和39年には、一の倉沢烏帽子奥壁の登攀に成功し、その年の夏、北穂高岳滝谷の岩壁、前穂高岳東壁の岩壁に幾筋もの登攀ルートの実績を築いていった。その頃若手OB中心に「堅炭山岳会」が創設され新しい山域を求め、南アルプス北岳バットレス、北アルプス剣岳チンネ等の岩場に意欲的は登攀を展開した。

その後高校生の岩登り、積雪期の登山が禁止され、登攀的要素の山行は少なくなっていった。私が入部した昭和45年頃になると年間の合宿山行スタイルがほぼ確立されていた。4月裏妙義での新人歓迎山行、5月高校総体の予選参加、6月谷川岳ボッカ訓練、夏の北アルプス縦走合宿、秋は裏妙義のルンゼ登攀、冬は関温泉でのスキー合宿、そして春合宿では谷川岳登頂と天神平スキーといった内容が、年間の平均的山行であった。夏合宿の山域選定は、2年リーダー部員の主体

高崎高校
サッカー部ＯＢ会
会長　阿久澤　茂（69期）

清水耳鼻咽喉科
Shimizu Otorhinolaryngology clinic
tel 027-353-4533
院長　清水裕二（サッカー部・73期）

バレーボール部OB（78期）
税理士　高橋　浩生
水泳部OB（89期）
白井　浩一
高橋浩生税理士事務所
TEL 027-363-6303　FAX 027-363-6302

南米ペルーアンデス　パルカラフ峰（6274m）

性が尊重され、計画を立案していたが、例年の踏襲の域を脱し切れなかったように思う。

例年同じような山域で合宿や山行が繰り返される中で、新しい山域や、登山スタイルを求める部員がいた。二年後輩の永井、落合達の年代は、吉野OBの指導の基、足尾山塊松木沢に入山、その下の、武藤、下村達は、谷川岳北面の沢の遡行に成功、又その後の年代は、いままで高高山岳部が、入山していない東北の山、北海道の山も視野に入れていた。昭和53年の須永、菅家達の代は、上越巻機山からのスキー滑降、3月の八ヶ岳縦走等、新しい試みの山行を実践した。

ここに紹介した山岳部員の足跡は、その山の初登頂でなく、ルートの初登攀でもない。しかしその当時の部員にとっては、新しい山域、新しいルートへのパイオニアワークであった。自分にとっての処女地に挑む時、不安感と焦燥感、逆に成功を導く強い意志や奮闘心による、心の葛藤が、付き纏うものである。ただ、慢心を捨て自分の力を信じ岩壁に対峙する時、チャレンジすることの充実感や、幸いにも完登した時の喜びは、かけがえのない経験である。ささやかであっても自分なりのパイオニアワークを、大いに賛美したい。私は一度、未踏の雪稜登攀でそのような経験をした。1979年、南米ペルーアンデス　パルカラフ峰（6274m）南西稜である。経験不足で途中敗退だったが、一歩一歩処女ルートを刻む瞬間、その時の、焦燥感、高揚感、充実感は、忘れることのできない経験である。

新しい分野での大いなるチャレンジを、山岳部にとどまらず、高高運動部に期待して止みません。すいらん体育会の更なる発展を、お祈りいたします。

KIZUNA　日部貴博（103期）

楽しかった山岳部

私は山岳部に入部して本当に良かったと思っている。部員は少なかったがとても活動的だった。総体では入賞し、関東大会に出場できた。三年時の夏山合宿では三泊四日で北アルプス（穂高岳）に挑戦し、特に難ルートであった北穂高岳（3106m）から奥穂高岳（3190m）間は常に死と隣り合わせの様であったがクライミング技術を駆使して乗り越え、大成功で終えることが出来た。冬は尾瀬で雪山に挑み、雪上歩行技術や雪洞・救急そりの製作など雪山での基礎技術を学ぶと共に水の大切さを知った。この他にも月例登山など多くの活動を行った。その中でも最も私の思い出に残っているのは、二年連続で国体に出場したことである。

二年の春に楽しそうという理由で先輩と二人で県予選に参加した。競技はクライミングと縦走（重りを背負って山を走る。重さは10kg）であり、クライミングは初心者だったので何度か練習をして臨んだ。クライミングは中位であったが縦走で私は優勝することが出来、その結果国体候補選手に選出された。県予選以後は候補選手同士で強化合宿を行い、夏に縦走専門の正選手に選ばれ、関東ブロック大

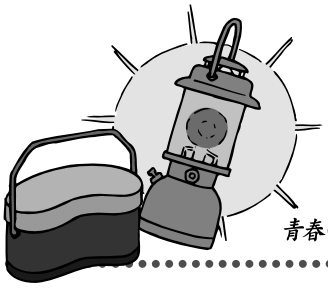
高崎高校
ラグビー部ＯＢ会
会長　関根　正志（70期）

ラグビー部OB（59期）
日本マスチック工業株式会社
代表取締役　木村　洋
高崎市中居町4-4-1　TEL 027-353-3551

ラグビー部OB（74期）
須永建設株式会社
専務取締役
1級建築士　須永信夫
高崎市倉賀野町52　TEL 027-346-2165

会に出場した。関東は毎年激戦区であったが、チームの皆が力を出し切って優勝し、本国体の出場権を手にした。この大会での優勝はチームの皆に自信を持たせ、本国体では全国一位を目指したものの全国はそれほど甘くはなく、クライミングでは8位、縦走は6位となった。共に入賞を果たしたが来年の再挑戦を誓った。

三年になってからは昨年の経験を生かして県予選を突破し、関東ブロック大会ではクライミングと縦走を兼任する大役を任されキャプテンとして大会に臨むことなった。大会ではクライミングが特にハイレベルの戦いとなったが、群馬チームはクライミングと縦走の総合力で優勝し、再び本国体の切符を手にすることが出来た。これ以後本国体までは受験勉強があって大変だったが、これまで通り練習を続けた。そしてついに迎えた本国体では、初日のクライミング予選で気持ちが空回りしてしまいまさかの予選落ち（11位）となってしまったが、翌日の縦走では気持ちを切り替えて臨み、私が10位、同じ高高生で共に出場した柴山が11位でゴールし総合では5位入賞を勝ち取ることが出来た。またも全国のレベルの高さを目の当たりにしたが、それよりも世界の大会で活躍する日本のトップクライマーの競技を見たり、他県のチームとふれあえたことはとてもいい思い出となった。



青春の絆 山岳部

回想録 REMINISCENCES

VOL. 5 水泳部OB会長（54期） 新谷 恭一 水泳部

水泳部70有余年の歩み

始めに

本来であれば、この一文は、永年に亘り高々水泳部発展に寄与された今は亡き顧問の矢島　明先生が、執筆されるべきものとの思いがあります。先生は、昭和29年から昭和39年まで高々に在職され、その間大勢の選手を育てられました。その中の一人にメルボルンオリンピックに出場された清水　健氏（53期）が含まれております。その華々しい競技歴は以下のとおりです。

清水　健氏は昭和10年（西暦1935年）8月高崎市並榎町に生まれ高崎高校より立教大学経済学部に進学しました。

第1回全国中学校水泳競技大会
2位（記録散逸のため詳細不明）

高々時代

昭和26年（1951年）全国高校水泳大会
100m自由形　3位（1分1秒2）
昭和27年（1952年）栃木国体にて
100m自由形　6位（記録不明）
昭和28年（1953年）高知国体にて
100m自由形　4位（1分1秒2）

立教大学時代

昭和31年（1956年）インターカレッジ
100m自由形　3位(58秒2)
200m由形　3位(2分11秒1)

またこの大会800mリレーにて立教大学チームの第一泳者として2分8秒9の記録を出し、この記録により同年11月に開催されるメルボルンオリンピックの水泳代表に選出されました。

創部からの歩み

明治35年（1902年）高崎中学校交友規約の運動部規定に剣道、柔道、野球、庭球、其他有益ナル運動と記されております。

明治36年（1903年）高々同窓会誕生。

昭和8年（1933年）水泳部創立されるも、プールがないため碓氷川にて練習に励み、桐生工業専門学校水泳部主催の第1回及び第2回近県中学校競泳大会に優勝し、学校に部活動として認められた。何回大会かはっきりしないが、優勝高崎中72点、2位浦和中52点、3位埼玉師範49点、4位不動中19点、5位高崎商、6位沼田中、7位群馬師範という記録が残っている。

昭和11年（1936年）高々の各運動部は県大会で優勝続出だったようですが、わが水泳部も県内では向かうところ敵なしの状態で、8月16日前橋郊外の竹の花プールで開催された県体育協会主催の県下水泳大会で、4種目中3種目で1位となり優勝しました。なお、100m自由形で堀口喜吉、100m背泳で湯浅茂男が大会新で優勝した。この勢いは、9月20日浦和中学主催の第9回全関東中学校水泳大会でも引き続き、300mメドレーリレーで高崎中（湯浅、狩野、堀口）は大会新で優勝、200mリレー3位、100m背泳で湯浅が4位、200m平泳ぎで狩野が4位に入り、総合成績で慶応普通部、日大工業に続き3位入賞となった。

昭和12年（1937年）県下一般水泳大会にて、高崎中は10種目中9種目で優勝を飾った。9月26日第10回全関東中学校水上競技大会が浦和中学で開催され、100m背泳で湯浅が優勝、詳細は不明だがリレー種目でも3位に入るなどし、総合得点で早稲田実業に続き2位という好成績を収めた。

昭和13年（1938年）上和田校舎から野附へ移転。

昭和14年（1939年）8月30日明治神宮国民体育大会水泳競技県予選が、高崎総合運動場公認プールで開催され、100m自由形1位畑中、2位石井、100m背泳1位浅見、の成績を収め、さらに300mメドレーリレーで優勝し、明治神宮大会へ4名が出場した。

昭和16年（1941年）太平洋戦争勃発

昭和20年（1945年）太平洋戦争終結

昭和21年（1946年）敗戦後初の水泳大会が前橋市桃井国民学校プールで開催された。男女中学生及び一般の選手百数十名が参加した。男子中学生50m、100m背泳で、小森谷　久（昭和23年卒、47期）が優勝した。

各種作業請負サービス
トオゴクリュウツウ有限会社
坂本　弘
（バレーボールOB 87期）
高崎市江木町1501-2　TEL 027-322-3961

バレーボールOB（82期）
花岡　弘樹
三栄電化株式会社
（めっき業）
高崎市倉賀野町2948 TEL.027-346-3733

野球部OB
代表取締役社長 川手 義昭（会長・62期）
群馬小型運送株式会社
高崎市飯塚町1068　TEL 027-362-1000
株式会社エイテック
群馬郡群馬町中泉811　TEL 027-372-8111

昭和22年（1947年）全国民体育大会水泳競技県予選が、伊勢崎市民プールで開催された。その結果内田　潤が100m自由形、300mメドレーリレーで国体に出場した。
昭和23年（1948年）新制高校発足。
昭和24年（1949年）高々前高定期戦創設。
昭和25年（1950年）6月14日防火用貯水池兼プール竣工。プール（25m、6コース）は校庭西側新設された。当日は早稲田大学より選手を招き、模範遊泳が行われた。午後から、伊勢崎高校、伊勢崎工業、高崎商業、高崎工業，沼田高校の各水泳部を招き6校での水泳大会を開催した。
昭和26年（1951年）1月30日校舎消失。全国高校水泳大会、清水　健100m自由形3位（1分1秒2）
昭和27年（1952年）指月庭とバラ園誕生。故井上房一郎氏の尽力による。9月7日群馬、長野、山梨の海無し三県対抗水泳大会が高崎市営プールで開催され、清水　健50m自由形28秒4の大会記録で優勝し、さらに200mリレー、400mリレーのアンカーとして活躍し両リレー優勝の原動力となった。栃木国体、清水　健100m自由形6位。
昭和28年（1953年）9月21日高知国体、清水　健100m自由形4位（1分1秒2）。当時の水泳部員は、
昭和28年卒（52期）梅山（自由形）、熊沢瑞穂（平泳ぎ・バタフライ）、
昭和29年卒（53期）青柳　弘（平泳ぎ）、清水　健（自由形）、名越正好（平泳ぎ）、増田秀平（背泳）、山口英雄（自由形）、
昭和30年卒（54期）大沢　聡（主務）、金井弘司（自由形）、柴山　実（自由形）、故田胡吉明（平泳ぎ）筆者（平泳ぎ）。
　後年、この頃の部員を中心に、小此木　勝（昭和32年卒、56期）を加え、故田胡吉明氏を会長に現在のOB会を結成いたしました。
昭和31年（1956年）11月第11回オリンピックがメルボルンで開催され、当時立教大学3年生の清水　健が、800mリレーにリレー要員として参加しました。
昭和32年（1957年）高崎高校創立60周年記念式典。
昭和33年（1958年）関東高校水泳大会県予選会が高崎城南プールで開催され、100m、200mバタフライにて池上幸治が優勝した。
昭和39年（1964年）10月7日体育館兼講堂の竣工。第18回東京オリンピック開催。
昭和41年（1966年）第1回県総合体育大会（全国高校総体と関東高校大会の予選を兼ねる）にて斉藤昭示（昭和43年卒、67期）、背泳にて好成績をあげ大分国体に出場した。
昭和42年（1967年）高崎高校創立70周年記念式典。プールの浄化設備完成。
昭和48年（1973年）県内初のスイミングクラブ、群馬スイミングスクール開校し、ヘッドコーチに高々水泳部OBの小茂田　猛（昭和42年卒、66期）就任。以後県内各地にスイミングクラブ林立する。
昭和49年（1974年）翠巒体育会設立。
昭和50年（1975年）野村照夫（昭和52年卒、76期）第30回三重国体出場し400m個人メドレー6位、インターハイ200m個人メドレー10位、400m個人メドレー8位の成績をあげた。
昭和51年（1976年）関東高校前橋大会、野村照夫200m個人メドレー5位、400m個人メドレー2位、インターハイ（長野市）出場。第31回若楠国体（佐賀）400m個人メドレー5位。8月10日開催の県高校総体にて高々水泳部団体優勝、以後2連覇。
昭和53年（1978年）高崎高校創立80周年記念式典。
昭和54年（1979年）須藤　聡（昭和54年卒、78期）高崎高校第1回功労賞受賞。9月14日国体出場。
昭和56年（1981年）高崎高校野球部甲子園選抜大会出場。高々水泳部OB会も故田胡吉明会長を中心に専用バスにて応援にかけつけた。
昭和58年（1983年）高崎高校に新プール竣工（25m、9コース）。
昭和62年（1987年）高崎高校創立90周年記念式典。
平成4年（1992年）7月5日関東高校水泳大会県予選会、子安貴弘100m、200mバタフライ優勝。同年の国体メドレーリレーに出場。
平成7年（1955年）関東高校水泳大会県予選会、皆川尚久100mバタフライ優勝（1分1秒8）。上岡100m背泳2位（1分4秒29）。小柏雄介100m自由形順位不明（59秒0）、400mメドレーリレー優勝（上岡、森田、皆川、小柏、4分16秒6）。関東高校水泳大会（神奈川県相模原市）森田真太郎200m，400m個人メドレー出場、高崎高校400mメドレーリレー出場。8月15日インターハイに森田を初め5名出場。
平成9年（1997年）高崎高校創立100周年記念式典。

水泳部顧問に丸山　博先生（軟庭部OB,68期）を昭和48年にお迎えし、先生の薫陶のもと昭和51年、昭和52年の県高校総体水泳大会に高崎高校水泳部は総合優勝を飾っておりますが、その前後の資料が散逸してしまい、ここに十分に記載できなかったことを残念に思っています。

結び

高々水泳部創設以来、歴代顧問の先生方、OB達の熱い指導に支えられてここまでやって来られました。現在OBの中で小茂田　猛が群馬スイミングスクールのヘッドコーチとして高崎市周辺の学生を指導し、県水連のコーチとして、また全日本ジュニアのコーチとして、様々な海外遠征に参加し、選手の育成強化に手腕を発揮しております。数々の大会で活躍した野村照夫は、京都工業繊維大学の体育学の助教授をする傍ら、日本水泳連盟の医科学委員会の委員長として水泳競技の発展に尽力しております。須藤　聡は渋川女子高校水泳部顧問を勤める傍ら、群馬県高校体育連盟の役員として県水泳連盟の発展のために活躍しております。高々水泳部OBが、県の内外で水泳競技の発展に活躍している事を、たいへん喜ばしく思っております。

最後に、OB会設立に携わった次の方々のご尽力と、水泳部への想いに感謝し敬意を表するものです。

多胡吉明（故）、小此木　勝、秋池宗一郎（昭和41年卒、65期）、小茂田　猛

創業明治11年
総合建設業・一級建築士事務所
製材・プレカット・アスウッド
ISO-9001 認証取得
株式会社 研屋
常務取締役　清水 正郎（野球部・75期）
本社／高崎市飯塚町805 TEL 027-361-5095

野球部OB　ハワイウォーター
小林　均（77期）
有限会社 小金
〒370-0865 群馬県高崎市寺尾町1614
TEL 027-325-4411㈹　FAX027-325-4445

硬式テニス部OB（83期）
一級建築士 山崎　聡
山崎聡研究所
高崎市飯塚町568　TEL 027-362-1341

中高年者のスポーツ参加のための

メディカルチェック

VOL.5

はじめに

こんにちは。81期の吉田です。昨年10月島野町に整形外科　ワイズクリニックを開院し、多忙な日々を送っていますが、今回御指名を頂きましたので、少しでも現役、OBの皆様の参考になればと思い、執筆させて頂きました。尚、本文は簡潔にまとめるため「です。ます。」はあえて使用していません。ご了承下さい。

スポーツ外傷・障害

我が国でも、国民の余暇時間が増え、何らかのスポーツ活動や身体的運動への参加が健康を増進することができると考えられるようになって、スポーツ活動への関心は近年非常に高まっている。たとえば、生活習慣病に対しての定期的な有酸素運動が心循環系疾患のリスクを低下させ、体重減量の補助手段として身体的運動は有効であるといわれている。また、高齢者の罹病率や死亡率の低下にも、おそらく強く結びついているであろう。一定量の身体的運動は、今や健康の増進における重要な要素であるとみなされているが、このようにスポーツ活動への参加が増大するなかで、スポーツによる怪我が増加している事も事実である。

スポーツによる怪我（傷害）は2つに分けられる。その一つは直接的傷害(direct injury)、または急性スポーツ傷害(acute sports injury)といわれ、これをスポーツ外傷と呼ぶ。他の一つは間接的傷害(indirect injury)、または慢性使いすぎ障害(chronic overuse injury)で、これをスポーツ障害という。

スポーツ外傷

スポーツ外傷は、スポーツ中に外部の物体（他の競技選手、用具、競技面など）と接触することによって生じる怪我である。すなわち、原因がはっきりとわかるスポーツ活動の偶発事故のため、体組織に損害が与えられた場合をいい、通常、損傷部位に疼痛と機能障害を伴う。

この外的要因としては、落下、関節・骨に対する剪断力、直接の打撃、また捻挫のように、骨・関節軟部組織に対して加えられた不意の力などが考えられるが、いずれにしても、この際は原因と結果の間にははっきりとした直接の関係が存在する。

スポーツ外傷は多くのスポーツに起こりうる。たとえば、ボクシングのような格闘技では、規則で決められた範囲内でも重度の脳挫傷や死亡事故が発生し、スポーツ外傷がいかに重大な結末をもたらすかを示すものである。また、サッカー、バスケットボール、ラグビー、水球など直接相手と対決するチームスポーツでは、身体接触プレーによって身体各所に怪我を生じる可能性をもたらす。アイスホッケーやグラウンドホッケーのように道具を振り回すプレーでは、怪我の危険が増大する。さらに身体接触競技ではなくても、ラケットボールやスカッシュのように狭い空間で道具を使用する場合にも、同様の危険に遭遇する可能性がある。スポーツのもつスピードが、怪我の発生に大きく関与する場合がある。ボブスレー、自転車競技、スキーの滑降などである。また、ある種の個人スポーツ、たとえば、体操、アクロバットスポーツや高飛び込みなどは、技術の難しさのために怪我の発生する危険があるし、岩登り、スキー、カヌーなどには環境の危険が加わるのである。

スポーツ障害

スポーツ障害は使いすぎ障害ともいう。使いすぎ障害の場合、一般的に起始は徐々にである。はじめは特定の動きのときのみ軽い痛み、あるいは、ある部分に軽いけれど頑固な、なかなかとれない痛みを訴えるが、日常生活や同じスポーツでも特定な動作をしなければ疼痛はない。しかし、その動作を継続していると疼痛は増悪し、遂には日常生活動作にも影響を及ぼすようになる。この使いすぎ障害は、繰り返し運動を含むスポーツ、たとえば、長距離走、水泳、漕艇、自転車競技などで生じるし、トレーニングの際の反復パターンにも同じような危険がある。たとえば、ハードル競技の練習、あるいはテニスのサービスの練習などがそれに当たる。

スポーツ外傷とスポーツ障害

既に述べたように、スポーツによる怪我を急性スポーツ傷害(acute sports injury=スポーツ外傷)と、慢性使いすぎ障害(chronic overuse injury=スポーツ障害)に分けた。まず、スポーツによる怪我に占める、スポーツ外傷とスポーツ障害の割合について述べる。

スポーツ外傷についてみると、男性はスポーツによる怪我の33.6%、女性は28.9%で、約3割を占めた。他方スポーツ障害の比率を各年齢層別にみると、発育期では、スポーツ外傷29.1%に対してスポーツ障害は70.9%と2/3を占め、この傾向は72.3%と女性に著しい。

青・壮年期では、スポーツ外傷とスポーツ障害が相半ばする。すなわち、スポーツ外傷41.1%に対してスポーツ障害

秋山土地開発株式会社
代表取締役 秋山　賢治
（応援部OB会 会長　74期）
藤岡市中大塚223番地1 TEL.0274 (24) 3911

転職応援サイト
ecareer
http://www.ecareer.ne.jp/
求人情報掲載のお申込・お問い合わせは↓(81期・応援・藤井)
株式会社スパン TEL 027・310・2080

損害保険・生命保険はお任せ下さい！
RISE ライズ総合保険
応援部OB(85期) 富田 和弘
㈲富田総合保険プランナーズ　www.rise-hoken.com
〒370-0044 群馬県高崎市岩押町25-18 TEL 027-322-2364

「スポーツ外傷・障害」

整形外科
ワイズクリニック
院長
吉田 和人
サッカー部（81期）

は58.9%であり、ことに男性において42.8%と57.2%となった。

中・高年期ではスポーツによる怪我の80%以上がスポーツ障害である。スポーツ外傷は男性男性17.7%、女性12.1%合計15.7%であるのに対して、スポーツ障害は82.3%、87.9%、84.3%であった。

これらからわかるように、年をとるにつれ外傷よりも障害に注意しなければならず、症状が同様であったとしても、若者と中高年では診断までの過程や治療に大きな違いが生じることもある。

スポーツ外傷疾患

スポーツ外傷を疾患別にみると、多い順に挫傷、捻挫、膝半月板損傷、骨折、膝内側側副靭帯損傷、膝前十字靭帯損傷であり、これらは、各年齢層においてほとんど変化はない。

スポーツ障害疾患

スポーツ障害疾患は各年齢層で特徴があり、発育期では、腰部筋筋膜症、膝タナ障害、関節痛、野球肘、Osgood病、腰部椎間板ヘルニア、靭帯結合織炎、肉離れ等である。

青・壮年期では、腰部筋筋膜症、関節痛、肉離れ、腱・腱鞘炎、腰部椎間板ヘルニア、膝タナ障害、靭帯結合織炎、野球肩、足底筋膜炎等である。

中・高年期では変性疾患が主となり、変形性関節症、腰部筋筋膜症、変形性脊椎症、テニス肘、腱・腱鞘炎、関節痛、腰部椎間板ヘルニア、肉離れ等である。

スポーツ外傷・障害と診断

以上、述べてきたように、スポーツ外傷・障害に属する疾患群が、従来の古典的整形外科で扱う骨折、脱臼といった外傷の範疇に収まらず、かなりの部分が軟部組織損傷であることがわかる。スポーツ外傷・障害の診断でも単純X線撮影が重要なことは間違いないが、MRIの出現によって、スポーツ外傷学の診断体系が大きく変わりつつある。

MRIは非侵襲的に任意断層面が得られ、筋・腱をはじめとする軟部組織の描出が可能かつ優秀であることなど、今やスポーツ外傷・障害の画像診断に必要不可欠なものとなっている。正確な診断を得られなければ、確実な治療は望めないのは明らかである。

スポーツ外傷の現場での緊急処置

筋、腱、靭帯を損傷すると、血管も損傷する。その結果出血がみられ、腫脹を来たし組織内圧が上昇する。出血、腫脹、組織内圧の上昇は治癒過程の障害になる。従って軟部組織損傷の場合できるだけ早く現場で出血と腫脹を抑えることが何よりも大切になってくる。

ほとんどのスポーツ外傷に適用できる初期の治療法は次項の頭文字をとってRICE(ライス)といわれている。

Ⅰ. RICEとは

① Rest（休息）： 幹部は安静にし動かしてはいけない。無理してプレーを続行すると、損傷部位は一層悪化するので休息を要する。

② Ice（氷冷）： 出血が少なければ少ないほど腫脹も少なくなるし、瘢痕組織も小さなものになる。氷冷は血管を収縮させ、出血を抑えると同時に疼痛も軽減する。

③ Compression（圧迫）： 氷冷と同時に外部から圧迫を加え、物理的に止血機能を促進させ腫脹を抑える事が目的である。圧迫包帯は弾力性のある包帯を用い、やや強めに巻く。

④ Elevation（挙上）： 受傷部位を心臓より高く挙上し、重力の働きによって静脈血の流れを良くし、組織間液の血管やリンパ管への流れを促進し、余分な体液を排出させる。出血は吸収され、腫脹は減少する。

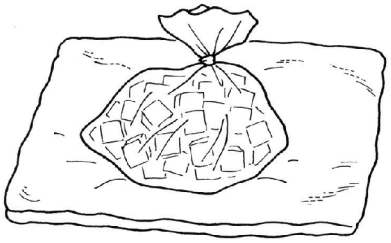
Ⅱ. RICEの実際の方法（図1）

① 受傷部にタオルをかぶせ、その上に氷の入ったビニール袋を乗せる。

② 次いで受傷部位の周囲を氷の上から弾力包帯でやや強めに巻き、圧迫をする。血行障害の場合、チアノーゼやしびれ、激しい疼痛が現れる。その時は一度ゆるめて、ま巻き直せば良い。

③ 30分間そのままにしておき、次いで皮膚を温め、血行をよくするために20分間包帯をとる。その後再度氷冷と圧迫包帯をする。

④ この手順を4～5回繰り返す。



a. 氷袋

b. 受傷部位にタオルをかぶせてのせる

図1　RICEの方法

高崎高校
バスケットボール部OB会
会長 林　進一（72期）
http://homepage3.nifty.com/suiran74/

高崎白衣大観音
高野山別格本山 慈眼院
住職　橋爪 良真
（バスケット部 75期）
高崎市石原町2710-1 TEL.027-322-2269
http://www.takasakikannon.or.jp/

宮下歯科医院
宮下 英一郎
（バスケット部 74期）
高崎市中紺屋町37　TEL.027-326-6211

関節のテーピング

最後に、関節に対するテーピングを簡単に紹介する。（図２）テーピングの効果は、関節包・靭帯にストレスを与える特定の動きのみを任意に制限し、関節を固定、支持する一方、その他の動きはほとんど制限しないことである。

この他、テーピングには関節部の圧迫、疼痛の軽減、不安定感の除去などの効果がある。

さいごに

スポーツ外傷・障害について、簡単に書いてみましたが如何でしたか？

整形外科医として１０数年やってきてしみじみ思うことは、診断は１つですが、治療法には幾つかの選択肢があるということです。Bestな治療とは普遍的なものではなく、患者のその時の状況によっても、変化するものだと思います。例えば、新入部員が足関節を捻挫したとします。３週間のギプス固定をし、安静を指示するでしょう。でも、全国大会を６週間後に控えた３年生のレギュラー選手が足関節を骨折したとします。骨折は６週間では直りませんが、どうしても出場したいと言うならば、リスクを十分に説明し、骨折部をボルトで固定し出場を許可するかもしれません。

プレーヤーの状況をよく理解し、その上で最善の治療法を選択することが、我々整形外科医の役目だと思います。

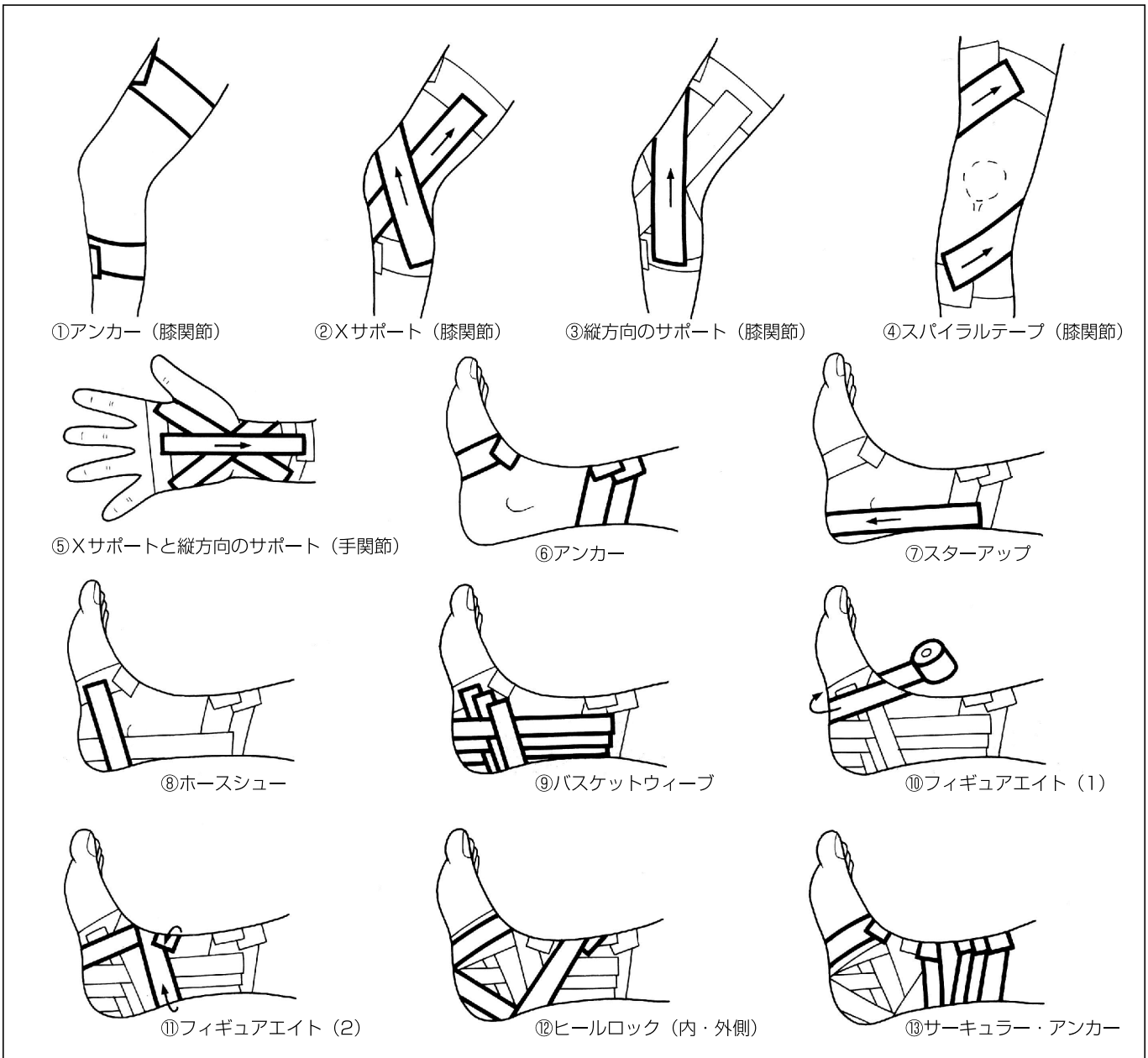
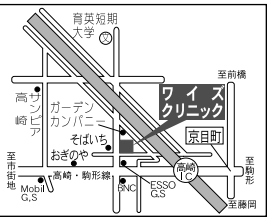


図2　テーピングの方法

Y'S CLINIC
整形外科 ワイズクリニック
診療科目
整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科
院長 吉田和人
高崎市島野町1038-1 ☎ 027-353-0550

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前9：00～12：30	○	○	○	休診	○	○ 9：00～12：00	休診
午後15：30～19：00	○	○	○	休診	○	○ 13：30～16：30	休診

日本整形外科学会認定　整形外科専門医



OB 各運動部OB会の近況報告

硬式野球部

小林 均（77期）

平成15年度の硬式野球部OB会は、6月29日の総会で新たに川手義昭氏（62期）を会長に選任致しました。当OB会では、年一回の総会と硬式球を使用しての前高OB定期戦、翠巒体育会及び保護者会行事への参加、そして現役選手の激励が主な活動となっています。また、こうした活動の準備や作業のために幹事会を定期的に開いています。

15年度は、5月に保護者会総会、6月に定期総会、7月に選手激励と夏大会の応援（残念ながら甲子園はお預けでした）8月は翠巒体育会ゴルフコンペ参加、11月に対前高OB定期戦を高々グランドで開催致したほか、会員名簿作成のための資料収集と整理作業を進めました。1～2年のうちに新たな会員名簿が出来上がる予定です。

ところで、当OB会も若手OBたちとの交流がなかなか図れていないのが実状です。現役選手（最近では50人もいます）への支援とOB定期戦に勝利するためにも、若手OBとの交流に力を注いでいきたいと思います。

バレーボール部

岩丸 高明（82期）

平成15年度バレー部のOB会活動報告をいたします。

昨年の8月に遡りますが、翠巒クラブが、全国大会に2年ぶり14回目の出場を果たしました。今年度は高校の塚本先生から直接卒業生を紹介してもらい、チームが一気に若返りました。遠征先の福岡でもミニOB会といったような雰囲気でもりあがりました。

今年になりまして正月2日に、現役との交流試合と夜は親睦会を開きました。久しぶりの会合とあって、たくさんのOBに集まって頂けました。翠巒クラブの若いメンバーが同士に声を掛け20代が約半数を占めたいへん賑やかな酒宴でした。

これからもOBの輪を若手へ繋ぎ会を盛り上げていきたいと思います。

バスケットボール部

橋爪 良真（75期）

現役バスケットは一昨年度インターハイ出場間違いなしと言われながら決勝で高商に惜敗し、OB総会での壮行会が叶いませんでした。しかし、昨年度は春に立見先生より監督を引き継がれた長竹先生が、四年ぶり十四回目のインハイ出場を見事に果たしました。OB総会は長竹先生の歓迎会を兼ね、現役のインハイに向けての壮行会も実施することができ、二重の喜びとなりました。

このところ数年に一度あるインハイ出場への寄付集めが大きな仕事となっています。現役が全国大会へ出ることはOBとしてはありがたいことではありますが、その都度他クラブOB会の皆さまにも部の垣根を越えて物心にわたる御支援を仰ぐことになり、まことに恐縮しております。厚く御礼を申し上げます。

また高々バスケOB会では、斉藤先輩（74期）の御尽力によりましてホームページを開設しております。長竹先生も大会や行事ごとに結果報告をしてくださっております。URLはOB会の広告欄に記載してありますので、一度ご覧いただければ幸いです。

ラグビー部

上羽 正弘（72期）

ラグビー部OB会は、平成十六年一月四日高崎ビューホテルにおいて新年総会を開催。昨年度OB会活動および決算報告ならびに今年度事業予定が発表され、すべて承認された。また、豊岡グランドでは、総会に先立ち恒例となっている現役対OB戦が行われ、白熱したゲームが繰り広げられた。三月一日の卒業式には、五名の三年生部員に対して関根OB会長よりOBとなった証として鷹をあしらった錦糸のエンブレムを贈呈し、卒業を祝った。

今年度のラグビー部OB会活動予定としては、年二回の「OB会報」の発行、年会費の徴収ならびに現役強化策として、例年八月に菅平で行われている夏合宿に関根OB会長等が激励訪問し、東農大二高に惜敗し、ベスト4で終わった県総体の屈辱をバネとして、花園を目指せるチームに生まれ変わるよう会長みずからが熱血指導を行う予定である。

水泳部

永尾 俊弘（70期）

本年度のOB会活動で特記すべき事は、OBの中で、現在も競技として水泳を行っている仲間が、徐々に増えつつあることです。県内のマスターズ大会や県民大会などで、同じ水泳部OBと顔を合わせるのはたいへん喜ばしいことです。またその成績も以下に記すようにたいへんにすばらしく、高々OBの意気を示すものです。小茂田猛（66期）県年齢別選手権55歳台25m平泳ぎ優勝、筆者県マスターズ50歳台25m、50m平泳ぎ優勝、県民体育大会50歳台50m平泳ぎ優勝、北関東イトマン水泳大会25m、50m平泳ぎ優勝、斎藤全賢（75期）県マスターズ大会45歳台50m平泳ぎ3位、100m白井（89期）県民体育大会30歳台200mリレー優勝。また、水泳部OBではありませんが、高々OBの中で山田　豊（60期）、真下泰彦（72期）両氏も各種マスターズ大会に参加し活躍しております。今年こそは、そういったOB達を集め翠巒会として大会に参加したいと願っております。

柔道部

鳥居 吉二（73期 顧問）

今年も、1月3日の高々道場での柔道部OB選手対現役選手対抗戦と柔道部OB総会を皮切りに活動が始まりました。

いま、高崎市教育委員会では運動部活動の活性化を図るために中高一貫指導の試みを始めています。柔道・陸上・野球・バスケット等ですが、その中心となって押し進めている人が村上晴久さん（柔道部・76期）です。村上さんは片岡中教諭時に、県中体連柔道大会で男女同時に団体優勝を果たしている中体連

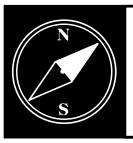
硬式テニス部OB（83期）
専務取締役 高橋 裕宗
株式会社 丸高海苔
高崎市問屋町西1-5-7 TEL 027-362-1341

硬式テニス部OB（91期）
原　寛
カネト水産 つりぼり・虹鱒料理・手打ちそば
群馬郡倉渕村大字川浦3900-156 TEL.027-378-3132
ホームページ http://www8.wind.ne.jp/wakaba/

株式会社大陸不動産
代表取締役 山口 正敏
（卓球部・58期）
高崎市宮元町108番地　TEL.027-322-4031

の柔道指導者です。高崎高校柔道部員の中にもその指導を受けて育ってきた生徒が多く、現在も活躍中です。中高一貫指導の試みは県柔道連盟高崎支部の協力のもと、社会体育活動とのタイアップという形で一層の効果を上げているようです。高崎高校の柔道部OBが地元で柔道をはじめとした、各スポーツの発展のために力を尽くしている姿は頼もしいかぎりです。

また、先日（4/29）、全日本柔道選手権大会を柔道部員ともに日本武道館に観戦に行ったところ、図らずも今井孝造先生にお会いいたしました。今年はオリンピックイヤーであり見応えのある試合の続出でした。ひとときその日の柔道の話に没頭しました。今井先生の益々元気なお姿を拝見し、部員と共に頼もしく感じた次第であります。



山岳部

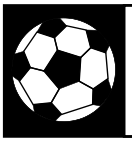
松本 基志（77期）

山岳部OB会は、翠巒体育会に、平成15年度から再び参加させて頂く事になりました。宜しくお願いいたします。

山岳部は、戦後まもなく同好会としてスタートし、その歴史は半世紀を超え、OB会会員数は、現在、約300名です。

OB会の活動は、1993年、一大事業であった山岳部40年史「山小舎」発刊以降、休止状態でしたが、2002年7月、歴代顧問の高橋信男先生、稲村善二先生をお迎えし、約70名のOBの参加のもと、久しぶりにOB会総会を開催しました。さらに、今年に入ってからは2月に幹事会、4月には、復活第1回ゴルフコンペを開催、現在、中央アルプス登山を計画中です。

今後の課題は、OB会組織の再編・装備と、総会・登山・ゴルフコンペ・懇親会等の定期的なOB会活動の継続であり、更に、最近、国体・インターハイ等で活躍している現役の応援・支援にも力を入れて行きたいと考えています。



サッカー部

国峯 賢一（74期）

今年卒業した昨年度の部長中町公祐君が高崎高校初のJリーガーとして湘南ベルマーレと契約しました。ミッドフィルダーとして背番号28番で3月14日からレギュラーでサテライトのCグループに所属してジュビロ磐田、名古屋グランパス、らと戦っております。湘南、東海地区の皆様ぜひ応援に行ってください。

二年目を迎えた、群馬40雀に前高と合同で参加しているチームも、高崎市リーグに所属するミドル翠巒、群馬リーグの翠巒クラブも新人の加入で前年度より良い成績を上げることができました。これも上村千秋君（77期）安藤英彦君（86期）を始めとする若いOB達のがんばりの成果です、御苦労様です。

夏の前高との交流試合ですが日程が決り次第御案内いたします、今年は高高のグラウンドです多くのOBの御参加をお待ちしております。

応援部

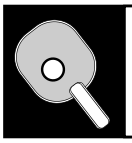
富田 和弘（85期）

押忍　応援部OB会は毎年1月に新年総会と春か秋にゴルフコンペを行っております。

現在、名簿登録上200名前後のOBがおりますが年間行事に参加される方は20名程という現状であります。また、今年の総会で永井会長から秋山会長へ会長が交代されました。

その他の活動としまして、夏の甲子園予選での現役応援部への激励援助、新年全体同窓会翠巒体育会等の席での校歌や応援歌「翠巒」のリーダーをさせていただいております。また、毎年、新年総会に出席されお世話になった顧問の植原先生が、昨年逝去されたことは本当に残念でありました。

植原先生の生前のＯＢ会に対するご厚情に深く感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。　押忍



卓球部

橋爪 洋介（85期）

深沢昇会長（五十七期）をはじめとする卓球部OB会は、毎年定例的に、新年会や現役生徒との交流試合、合宿への激励参加などを行っております。

また、高見沢先輩のご好意によりまして、毎月第二土曜日に松風館（マツヤ研修所）を開放され月次練習会を開催させていただいており、皆で和気藹々と汗を流しております。

さらに、とっても元気なOB諸先輩方は個々におかれましても、各社会人大会への積極的な参加をされ、現役以上に熱いのです。

特に、今年はアテネ五輪が開催され、卓球においては「愛ちゃん」こと福原愛選手の活躍が期待され、卓球熱も盛り上がるのではないかと思っているのはわたくしだけでしょうか。そして、群馬県においては秋に「ねんりんピック」が予定されており、何歳になっても、楽しめる卓球は幅広い世代に愛されるスポーツです。これからも、「卓球」「高高卓球部」発展にOB一丸となって頑張ります。

剣道部

小池 政一（77期）

昨年度剣道部の面倒を見てくださった真藤克裕先生が去られ残念な一方、伊東高から剣道7段の渡辺正一先生を迎え、現顧問戸塚先生と共に指導していただけることになったこと、大変嬉しいことです。OB会としては、今年も合宿にできるだけ参加し、現役の力になりたいと考えています。また、大学生から50代の先輩まで共に竹刀を交える新年稽古会にも、多くの先輩方の参加を呼びかけたいです。

昨年度、元事務局長の吉野先輩方が道場に名札掛けを寄贈してくださいました。現役とともに、高段者OBの名札が掛けてあります。昨年度は沖 啓（75期）先輩が6段、今年5月に、飯野一彦先輩（74期）、柳田昌彦先輩（80期）が7段に昇段、新たに名札がかけかえられました。多くの卒業生がこの名札に名を連ねるよう剣道に携わってくださったらと願っています。

真木会 真木病院
高崎市筑縄町71－1 ☎027-361-8411
真木 俊次（剣道部 55期）　永尾 俊弘（水泳部 70期）　真木 武志（バスケット部 72期）

硬式テニス部

浜名 和也（84期）

硬式テニス部OB会は、今年の1月2日に正式発足を迎えました。顧問であった山口先生、インターハイ出場で部に昇格になった時の林先輩など諸先輩を迎え、懐かしいひとときを送れました。

昼夜60名を超える参加者を数える中、初代会長には83期の斉藤英敏さんが就任し、当面の活動としては、年1回懇親会を兼ねてテニス大会を開く、現役の活躍があった時には、援助するということが確認されました。

（今年のテニス大会は8月14日、12時より上並榎テニスコートで開きます。OBの皆様には各期代表の方より連絡がいくと思いますが、多数の参加を期待しております。）

まだまだ若い部で翠巒体育会の諸先輩方にはご迷惑をかけると思いますが、よろしくお願いいたします。

最後に、部発足に際しましてテニス部顧問の塚越先生には多大な援助をいただきましたことお礼申し上げます。

ソフトテニス部

浦野 克彦（78期）

八月十六日に恒例の現役との交流試合を行い、その後懇親会をもった。老練なプレーに現役選手は翻弄され、OB各氏の健在ぶりを見せつけた一日であった。懇親会の席では、二十一年ぶりに団体でインターハイ出場、初のジャパンカップ出場を果たした三年生を招待しての食事会も同時に催した。かつて、全国選抜大会三位という輝かしい実績を挙げたが、その後団体戦では全国出場を果たせず、農二・前商の後塵を拝していたが、久々に溜飲を下げた年であった。その勢いを駆って、今年のインターハイ個人戦予選では、一位・三位・七位と健闘し、三組の出場を決めた。今年こそは全国での活躍を期待したいところである。

ぜひとも、OB各氏の来校および激励をお願いしたい。

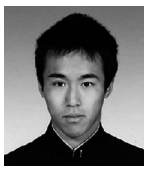
陸上競技部

波多野 重雄（77期）

陸上部OB会は、今年度、役員改選の時期を迎え、事務局を担当している山口人巳君が大学院に入学したため退任を希望という緊急事態を招きました。しかし、まわりで補佐をするという条件で、後藤会長とともに留任していただくことになりました。昨年までと同様、会員相互の懇親、現役生徒の活動の支援を行っています。会員の懇親については、昨年は、OB回総会を8月の中旬に行いました。現役生徒への支援については、今年度も3000m競歩で関東を制し、インターハイに出場する選手がいますし、現監督の高橋賢作先生が今年度いっぱいでご勇退となりますので、ぜひ入賞を果たせるよう激励していきたいと思います。また、最後となりましたが、昭和53年度まで監督としてお世話になった小林馨先生が、高崎経済大学附属高校副校長を最後に、今年3月ご退職されました。長きにわたるご奉職、ごくろうさまでした。

《高崎高校運動部の活動報告》

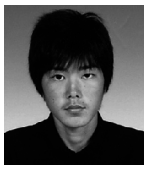
先輩がんばってます



陸上競技部

長幡 樹

陸上部は個人としてもチームとしても全国制覇を目標としています。全国に行くためには県・関東を勝ち抜かなければいけません。そのため、一つ一つの大会を大事にし全力で取り組んでいます。陸上は個人競技と思われますが僕らは団体競技だと思っています。一人で戦っているのではなく先生の指導、チームの仲間がいるから戦える、この気持ちがあるからこそ厳しい練習をこなし、全国制覇という目標に向かい一歩一歩進んでいけるのです。県総体に向け最後の「詰め」を行っているところです。今をしっかり練習し、調整を行い一人一人が総体で全力を出して全国への道を一歩ずつ踏み出していこうと思います。顧問の先生方、OBの方々の支えに感謝し、それに応えるように頑張っていきます。



ソフトテニス部

清水 健一

我々ソフトテニス部は昨年度に21年振りの団体戦によるインターハイ出場を果たしましたが、惜しくも一回戦敗退という結果で終わってしまいました。なので2年連続インターハイに団体で出場し、ベスト8まで勝ち進むチームを目指して日々練習に励んでいます。

現在3年11人、2年18人、1年13人の計42人という3コートには収まりきらない人数ですが、その分一人一人が工夫をして、充実した練習をしています。成績では新人戦個人ベスト16に4本、団体準優勝という用足りない結果ですが一致団結して全力で勝ちにいきたいと思います。まずは農二、前商に快勝して関東へ、そこからインターハイへ。皆様の御声援よろしくお願いいたします。

ラグビー部

外処 郷平

僕達ラグビー部は、船戸先生をはじめとする諸先生方のご指導のもと、花園出場へ向け日々練習に励んでいます。部員の数も50人となり充実した練習をし、全員で声を出しグランドは活気にあふれています。新人戦では決勝へと駒を進めることができず、3位という結果に終わりました。これから行われる大会では常に優勝を目標としていくつもりです。チームに合ったシステムを探す一方、高高ラグビー部の伝統欠くことなく、最良のチームづくりをしていきたいと思っています。OBの方や、群馬県全体の期待を上回るような試合をし、更に花園出場という結果を残していきたいです。変わりつつある群馬のラグビー界、お待たせましたが、今年こそ僕達・高高ラグビー部が花園へ行きます。

六郷動物病院
獣医師 横坂 和直
高崎市筑縄町53-5
Phone：363-6500

山岳部OB（84期）
代表社員・税理士 真下 哲夫
税理士法人 真下経営
高崎市倉賀野町1713 TEL 027-346-1463

山岳部OB（78期）
税理士 吉井 章一
吉井章一税理士事務所
高崎市上中居町251 TEL 027-328-6701

卓球部

武井 悠

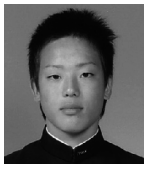
我々卓球部は、1年生22名、2年生12名、3年生9名、計43人で日々練習に励んでいます。今年は、昨年の先輩方が残した県大会ベスト8を目指してがんばっています。また、県内トップレベルの進学率をほこる高崎高校の学力を活かして、「偏差値の高い卓球！」を合い言葉にし、毎日に緊張感を持って練習しています。我が卓球部には、卓球1年目のビギナーから、卓球11年目の超ベテランまでいます。しかし、毎日の努力をこなすことにより、すばらしい実力がついてくるのです。日々の真剣な練習ほど大切なものはありません。それによって、県内の強豪を打ち破ることは可能です。応援よろしくお願いします。

バスケットボール部

藤井 琢矢

我々バスケットボール部は、顧問の長竹先生、副顧問の篠原先生、渋谷先生の指導の下、部員一同戮力協心の伝統を守り、日々練習に励んでいます。近づく県総体では必ず優勝し群馬県開催の関東大会においてすばらしい成績を残したいと精進しております。そして、今年は高高バスケットボール部初の二年連続インターハイ出場を果たし、ベスト8になることがチームとしての目標です。

もう残り少ない時間の中で、一人一人の仲間がそれぞれの役割をこなし、協力し合う高高バスケットボール部の伝統をこれからも守り続け、また応援してくださる方々の期待に応えるために感動できる試合をしたいと思いますのでよろしくお願いします。



サッカー部

間藤 洋平

現在サッカー部は3年生22名、2年生22名、1年生26名の計70名で構成され、坂田先生をはじめとする諸先生方のご指導のもと、また保護者会やOB会などに支えられて日々練習に励んでいます。ここ数年県ベスト8の壁を惜しくも破れぬ状態が続いています。今年はこのような大所帯で、全員が満足にボールに触れない状況となっていますが、チーム内でお互いに競い合って自らの向上をはかっています。

常に一つの目標として群馬県制覇が掲げられており、決して手の届かない距離にあるわけではありません。日々精進し、今年こそ高々サッカー部で群馬県制覇を成し遂げたいと思います。

水泳部

福田 裕紀

我々水泳部は、入賞、関東大会出場、インターハイ出場など、様々な個々の目標をかかげ3年9人、2年9人、1年3人の計21人で日々練習を重ねています。

水泳は泳げるシーズンが限られているため、シーズンオフの冬にどれだけ準備ができるかも重要となります。そのため、冬には週1回室内プールに通ったり、地味なトレーニングも重ねてきました。これから本格的に夏に突入し、水泳部の真価が問われることになると思いますが、お互いに団結し、努力してきた自分自身を信じて、特に3年生にとっては高校最後の部活動に全力を注ぎたいと思います。今年は関東大会が群馬なので応援よろしくお願いします。

バレーボール部

真崎 将太

我々高崎高校バレーボール部は、新入部員16名を新たに迎え、総勢36名で毎日部活に取り組んでいます。我々の目標は「県優勝」です。今年度の前2回の大会では、準優勝に終わってしまいました。次の総体では、と今から一同燃え滾っております。

我々には、他のベスト4のチームのように、経験という武器はありません。しかし、先輩から受け継いだ、「努力」という武器があります。この点では、他のチームに負けない自信があります。これを武器に、最後の最後まであきらめないプレーで優勝します。

柔道部

松嶋 宣繁

私達柔道部は3年5人、2年2人、1年5人の計12人で日々練習に励んでいます。

私達が常に心掛けていることは、何事も工夫することです。私達の練習時間は限られています。その中で最善の結果を出すため常に工夫しています。そして、苦しい時や辛い時は前へ踏み出るのです。後戻りしていては自分にも相手にも勝つことができません。これからは関東大会、インターハイ県予選という大きな大会が続きます。自分達のすべき事を見失わずに、試合までの残された時間の中で「工夫」と「前に出る気持ち」を心掛け、高崎高校の名をとどろかせ、インターハイ出場を目指します。これからも応援よろしくお願いします。

剣道部

金井 友宏

高々剣道部長年の伝統である短期集中をモットーに、私達は優勝を目指して日々稽古に励んでいます。

毎日忙しい中直々に稽古をつけてくれる戸塚先生、今年高高に赴任なさった剣道七段の渡辺先生をはじめとして、各合宿の際には多くのOBの先輩方に稽古をつけていただくことが出来、非常に恵まれた環境にあると思います。

昨年のインターハイ予選第三位という結果を誇りに、更に上を狙うべく日々の稽古に励み、伝統の高々魂を持ってして必ずや優勝を掴み取りたいと思います。そして新たなる剣道部の歴史を担っていく使命を胸に、日々の稽古に更に打ち込んでいくことを約束します。

硬式野球部

長壁 幹

我々硬式野球部は、大須賀先生、毒島先生の指導の下、みんなで切磋琢磨し、日々練習に励んでいます。

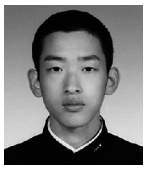
新チーム発足以来の成績は、残念ながら秋の段階では、いい結果に結びつきませんでした。しかし冬のとても厳しい練習を乗り越えて、春になって粘り強い試合運びができるようになってきました。

3年生にとってはこのチームでの活動も残り2ヶ月になりました。各学年の横のつながりを強めるとともに、学年という壁を越えた縦のつながりを大事にして、チームの結束を固めたいと思います。そして甲子園出場という大きな目標に向かって、日々の練習に取り組んでいきたいと思います。ご声援よろしくお願いします。

SYSTEM HOUSE
株式会社 システムハウス
代表取締役 堤 康高
（卓球部 71期）
高崎市芝塚町1994-5 TEL.027（327）8451

剣道部OB（69期）
株式会社 建築サービス
代表取締役社長 藤木 正行
本社 高崎市南大類町1296 TEL.027-352-0026

剣道部OB（55期）
高々剣友会会長 横田 茂
高崎市上並榎町567-28 TEL.027-323-2432



弓道部

鈴木 陽

我々弓道部は、2年生16名、1年生12名で天野先生の下活動しています。3年生が引退した今、2年生が主力となって公式戦勝利に向け、練習に励んでいます。

部員は皆、高校で弓道を始めるので、1年生の指導には全力であたる必要があります。正しい射型を身につけ、一射一射を大切にするよう全員で心がけたいと思います。毎日の練習を通して、試合で緊張に打ち勝ち、自分の力を最大限に出せるような射手を目指します。

的中の快感とは逆に、結果が出ず辛い思いをすることも多いスポーツですが、励まし合い、競い合う仲間と共にそれを乗り越え、自己の成長のためにも、毎日の練習をがんばっていきたいと思います。

硬式テニス部

藤井 大地

テニス部は去年よりも若干少ないものの、約90名という多数の部員で活動しています。そのため、個々の練習量は少ないですが、一人一人が工夫して少しでも練習を多く出来るように努力しています。その結果、全体としてのレベルが上がり、大変層の厚い部となっています。実際に新人戦、春体の両大会で本戦出場者が、延べ30名と県内で最も多い本戦出場人数となっています。しかし、この人数が仇となり、トップ層が思うように伸びず、個人で最高が県ベスト8、新人戦の団体戦においても県ベスト8と辛酸を嘗めました。今後の目標としては、層の厚さをそのままに、トップ層をより伸ばして、団体戦で関東大会、インターハイに出られるよう互いに切磋琢磨していこうと思っています。

山岳部

高橋 慎太郎

心配していた新入部員は、私達の熱心な勧誘活動により4人が山岳部に入部してくれ現在7名で活動をしています。昨年度は総体8位で関東大会へ出場、個人では全国大会出場者もでました。

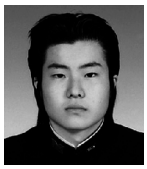
現在山岳部は総体で上位入賞を目指して練習と資料作りで忙しくも楽しい毎日をすごしています。また山岳部は翠巒祭の展示も行うのでその準備も行っています。3年生がいなくて少々さびしいこともありますが、少ない部員でこれからも毎日体力面や知識面のトレーニングを積んで、楽しく安全な登山を行っていきたいと思っています。

スキー部

高木 紀彰

私達スキー部は、現在3年生2名、2年生1名という少ない人数で活動しています。スキーは短い冬の間、しかもスキー場までいかないとできないスポーツであるため、活動は限定されていると思いがちです。しかし、夏の間の練習こそがシーズン中の練習をより良いものにするために重要になるのです。一口にスキーといっても、私達が行っているのは競技スキーであり、純粋に個人のタイムを競うものです。それは自分との戦いでもあります。なので練習では、少ない人数での団結を図ると共に、個人のレベル・目標に応じた練習を行っています。

決して満足のいく練習をしているわけではありませんが、個々の目標に向けて日々精進していきたいと思います。



應援部

神戸 雄大

我々應援部は、今年で五十三代を数え、高々百余年の伝統を長きに渡り、受け継いで参りました。

我々五十三代應援部は、「母校高崎高校勝利の為」に、一致団結をし、常日頃より、決して厳しくないとは言えない練習を積み、誰よりも高々を愛し、規律ある活動を行っております。延いては国際化が進むこの時代に於いて、日本独特の「應援團」という伝統を継承しつつ、常に正しい「應援部」のあり方を見つめ、時代に適応するよう発展させ、この高崎高校の将来のために尽力していく次第であります。

今後とも、より一層の御指導、御鞭撻を賜ります様御願い申し上げまして御挨拶ととさせて戴きます。伝統よ更に栄えあれ　押忍

空手道部

松本 照林

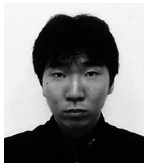
我々空手道部は3年生1名、2年生7名、1年生9名の計17人で活動しています。平日の放課後4時から6時までの2時間で、その後に各自自主練をしています。試合が近づくと週6日制で練習をしています。空手部の目標は団体・個人形、組手ともに全国大会出場です。練習量では他校に負けてしまうので、基本を中心とした質の高い練習をし、コーチはいませんが、自らに厳しく、お互いに切磋琢磨して、空手部全体で一丸となって取り組もうと思います。応援よろしくお願いします。

軟式野球部

阿久沢 晃宏

我々軟式野球部は3年生16名、2年生21名、1年生10名の計47名により日々練習に励んでいます。練習は週3日、河川敷のグランドで行っています。練習日数、場所は限られているのですが部員一人一人が数少ない練習を充実させるために、真剣に取りくんでいます。軟式野球ならではの楽しさや明るさもあり、一人一人が笑顔で元気に野球をしています。昨年度の県総体では先輩たちが準優勝という結果を手にしました。僕たちもそれに負けない成績を残したいと思います。

そしてこれから今までに培った技術、それにこれからの練習で身につける予定の知力で高々旋風を巻き起こしたいです。応援よろしくお願いします。



バドミントン部

高橋 千春

私達バドミントン部は少ないコート数のなか、全員で精力的に活動しています。皆、自分の技術向上のため、そして団体戦ベスト8の壁を破るため、これまで以上に練習を積み重ねています。しかしながら、私達の地域には、バドミントン部がある中学校が少なく、我が部はほぼ未経験者で構成されています。そのため、高校総体などでは、経験者の多い地域の高校に圧倒され、悔しい思いを抱いているのが現実です。この歴然とした差はそう容易に埋まるものではありませんが、バドミントンへの情熱と勝利への渇望を日々の練習にぶつけてゆけば、なんらかの形で成果が出てくると思っています。これからも、現状に満足することなく、より「上」を目指し、全力で努力していきます。

剣道73期 堀口　順
夜10:00まで
みな様の食卓をささえます
堀田屋
鮮魚 仕出し お弁当 酒
営業時間 AM9:00～PM10:00
高崎市剣崎町232/群馬八幡駅そば
foods hill
HORITAYA
堀田屋
TEL(027)343-3223

紳士服の専門店
マツヤ
代表取締役 高見澤　隆（卓球部・61期）

翠巒体育会ホームページ
http://www5.wind.ne.jp/t2suiran/

平成15年度 運動部活動状況

陸上競技部

関東大会
1500m　関　敏則　7位
5000m　関　敏則　8位
やり投　高田裕弥　5位
円盤投　片山裕之　1位
インターハイ
円盤投　片山裕之　予選落
やり投　高田裕弥　予選落
国体
円盤投　片山裕之　予選落
新人大会
1500m　小杉　健　3位
5000mW長幡　樹　1位
走幅跳　谷岡一誠　3位
関東選抜新人
5000mW長幡　樹　1位
関東選手権大会
5000m　関　敏則　1位
群馬県高校駅伝　3位
(関東大会出場)
新人駅伝　4位

バスケットボール部

インターハイ県予選
1回戦　126−16　藤工
2回戦　93−35　渋工
3回戦　94−66　前橋
準々決　111−72　桐生
準決勝　89−75　高商
決　勝　80−61　樹徳　優勝
インターハイ
1回戦　74−93　中部工業(沖縄)
選抜大会県予選
準々決　118−75　沼田
準決勝　79−75　育英
決　勝　70−93　高商　準優勝
西毛地区新人大会
1回戦　20−0　藤北
2回戦　119−27　高北
3回戦　109−66　吉井
決　勝　115−64　新島　優勝
県新人大会
2回戦　108−26　高経附
3回戦　119−43　伊東
準々決　85−43　新島
決勝リーグ　69−84　樹徳
85−64　育英
97−69　高商　2位
関東新人大会
1回戦　71−81　桐蔭学園(神奈川)

バレーボール部

関東大会
1回戦　1−2　東京学館総合(千葉)
インターハイ県予選
3回戦　2−0　伊商
準々決　2−0　育英
準決勝　0−2　桐商　3位
西毛地区大会
1回戦　2−0　高東
準決勝　2−0　吉井
決　勝　2−0　高北　優勝
秋季大会
2回戦　2−0　安実
3回戦　2−0　前橋
準々決　2−0　高北
準決勝　2−1　県央
決　勝　0−2　伊東　2位
新人大会
4回戦　2−1　樹徳
準々決　2−0　前商
準決勝　2−0　桐商
決　勝　0−3　伊東　2位

ソフトテニス部

関東大会
個人　徳安・相澤組　ベスト16
小林・丸岡組　ベスト32
斉藤・土岐組　3回戦
根岸・野尻組　1回戦
インターハイ県予選
団体　優勝
個人　徳安・相澤組　8位
インターハイ
団体　1−2　高知小津　1回戦
新人大会
団体　準優勝
個人　清水・長野組　ベスト16
根岸・野尻組　ベスト16
植松・今井組　ベスト16
今林・村上組　ベスト16
ハイスクールルジャパンカップ予選
個人　清水・長野組　ベスト16
根岸・野尻組　ベスト16
植松・今井組　ベスト16
今林・村上組　ベスト16
片山・木村組　ベスト16
県一年生大会
個人　片山・木村組　優勝
植松・今井組　準優勝

卓球部

インターハイ県予選
団体　ベスト16
新人大会
団体　ベスト16
シングルス　武井　悠　ベスト64
佐藤健介　ベスト16
県強化大会
シングルス　武井　悠　ベスト16
田村　崇　ベスト16

ラグビー部

インターハイ県予選
準々決　3−60　農二　5位
新人大会
1回戦　41−7　合同(興陽・関学)
2回戦　22−15　県央
準決勝　12−66　農二
シード決定戦　19−27　前橋　ベスト4
7人制大会
1回戦　24−10　育英
2回戦　29−5　前橋
3回戦　24−17　樹徳
決　勝　22−0　県央　優勝

サッカー部

インターハイ県予選
4回戦　3−1　桐一
準々決　0−1　高経附(延長)
ベスト8
国体
中町公祐　群馬県選抜として出場
決　勝　0−2　神奈川　準優勝
県高校サッカー選手権大会
一次予選シード
二次リーグ
1−0　桐商
1−3　前橋
0−6　育英
(二次リーグ敗退)
新人大会
1回戦　6−0　高東
2回戦　4−1　桐南
3回戦　1−0　伊商
準々決　0−8　育英

水泳部

県総体
50m自　今泉裕太　1位
中間貴之　3位
100m自　今泉裕太　3位
紋谷祐爾　7位
200m自　紋谷祐爾　8位
1500m自　白井克尚　7位
200m平　深津知由　8位
200m個メ　贄田高弘　1位
(大会新)
福田裕紀　8位
400m個メ　贄田高弘　1位
400mR　福田・贄田・紋谷・中間
2位
800mR　贄田・今泉・紋谷・福田
3位
400mメR　贄田・中間・福田・今泉
4位
学校対抗　3位
関東大会
50m自　福田裕紀・今泉裕太
100m自　今泉裕太
200mバタ　贄田高弘
400m個メ　贄田高弘
400mメR　贄田・中間・福田・今泉
400mR　贄田・福田・紋谷・今泉
800mR　贄田・今泉・紋谷・福田
インターハイ
400m個メ　贄田高弘　11位
国体
400m個メ少年A　贄田高弘　8位
男子200m混合R小杉　健　4位
春季新人水泳大会
50m自　中間貴之　1位
福田裕紀　2位
大島卓也　3位
白井克尚　5位
飯野恵太　5位
100m自　中間貴之　1位
白井克尚　4位
100m平　飯野恵太　7位
200m個メ　福田裕紀　4位
白井克尚　5位
県高校新人大会
50m自　中間貴之　1位
紋谷祐爾　2位
大島卓也　5位
100m自　紋谷祐爾　2位
白井克尚　6位
100m平　中間貴之　2位
200m平　飯野恵太　2位
入沢　毅　6位
100mバタ　佐俣友規　6位
200m個メ　白井克尚　6位
400mメR　白井・中間・大島・紋谷
1位
400mR　紋谷・白井・中間・大島
1位
800mR　紋谷・白井・中間・大島
1位
全日本選手権
400m個メ　贄田高弘　出場

柔道部

関東大会
団体　ベスト16(優秀校表彰)
インターハイ県予選
団体　3位
個人　60kg級　芹澤　2位
66kg級　中野　3位
81kg級　松嶋　優勝
インターハイ
個人　81kg級　松嶋　出場
新人大会
団体　3位
全国高校柔道選手権大会県予選
団体　3位
県学年別大会
個人　73kg級　佐藤　2位
81kg級　吉田　優勝

剣道部

インターハイ県予選
2回戦　5−0　桐西
3回戦　5−0　県央
4回戦　2−2　吉井
(代表選で勝ち)3位入賞
県新人大会
2回戦　5−0　前南
3回戦　4−0　桐生
4回戦　0−2　前西　ベスト8
県選手権大会
金井友宏　個人戦　ベスト8

高崎高校　陸上部OB会　会長　後藤　次一(68期)

硬式テニス部

関東大会
　個人シングルス
　　矢川雄太　出場
インターハイ県予選
　団体　3位
　個人シングルス
　　橘　直明　ベスト8
　個人ダブルス
　　橘・松原組　ベスト8
県新人大会
　団体　ベスト8
　個人ダブルス
　　狩野・串田組　ベスト8

空手道部

インターハイ県予選
　団体組手
　　1回戦　2−2　前商
　　(ポイント勝ち)
　　2回戦　2−3　中之条
新人大会
　個人形　松本照林　決勝進出
　個人組手　松本照林　ベスト8
　団体組手
　　1回戦　3−2　館林
　　2回戦　2−3　前橋

硬式野球部

全国高校野球選手権大会県予選
　2回戦　6−2　尾瀬
　3回戦　3−2　前工
　4回戦　4−5　太田 ベスト16
秋季関東大会県予選
　2回戦　6−3　県央
　3回戦　6−4　樹徳
　4回戦　0−7　桐生 ベスト16

スキー・スケート部

県総体
　大回転　園田悠樹　5位
　　橋爪真太郎　28位
　回転　園田悠樹　7位
　　橋爪真太郎　23位
　　(2名関東大会出場)
関東高校スキー大会
　大回転　園田悠樹　22位

弓道部

インターハイ県予選
　予選敗退
関東個人選手権選抜大会県予選会
　大坂亮司　7位
　(関東大会出場)

バドミントン部

インターハイ県予選
　団体　1回戦　3−1　渋川
　　2回戦　1−3　太田
新人大会
　ダブルス
　　高橋・落合組　5回戦 ベスト16
　シングルス
　　三世川、金田、落合、安藤、福田　4回戦
　一年シングルス
　　倉林、秋池、綾小路、水口、大久保、滝川、薮原　4回戦
高校生大会
　シングルス　高橋千春　準優勝

軟式野球部

インターハイ県予選
　2回戦　3−0　高工
　準々決　0−2　農二　ベスト8
新人大会
　2回戦　4−3　農二
　準々決　6−0　中央
　準決勝　2−6　前商　3位

山岳部

関東大会　出場
国体関東ブロック大会
　縦走の部　団体　2位
　　日部貴博　2位
　　柴山大寿　4位
　総合成績　団体　1位
国体
　縦走の部　総合成績　5位入賞
　　日部貴博　10位
　　柴山大寿　11位

第39回高校総体 成績一覧(平成16年)

総合順位　3位

バスケットボール部

1回戦　76−41　吉井
2回戦　90−37　伊東
3回戦　126−36　太東
準々決　100−58　太田
準決勝　39−60　育英　3位
(関東大会出場)

卓球部

学校対抗　1回戦　1−3　前南
シングルス　武井　悠　ベスト64
　佐藤健介　ベスト64

バレーボール部

4回戦　2−0　太工
準々決　2−0　農二
準決勝　2−1　県央
決　勝　1−2　伊東　2位
(関東大会出場)

柔道部

団体　3位
個人　松嶋宣繁　準優勝
(関東大会出場)

ラグビー部

1回戦　89−0　桐一
2回戦　19−15　高商
準決勝　0−57　農二
シード決定戦　5−11　前橋　4位

ソフトテニス部

2回戦　3−0　前工
3回戦　2−0　桐生
4回戦　0−2　前西　ベスト8
個人　根岸・野尻組　ベスト8
(関東大会出場)

バドミントン部

団体　3回戦　2−0　渋川
　4回戦　1−2　館林
個人シングルス　秋池　ベスト64

サッカー部

4回戦　2−0　太工
準々決　1−2　西邑楽　2位

剣道部

団体　1回戦　0−2　育英
個人　星野圭治　ベスト32
　金井友宏　ベスト16

弓道部

団体　準優勝
(関東大会出場)
個人　大坂亮司　準優勝

軟式野球部

2回戦　3−0　桐生
準々決　0−2　高商　ベスト8

硬式テニス部

2回戦　3−0　下仁田
3回戦　2−0　前南
準々決　0−2　前西　ベスト8
個人シングルス
　須藤　ベスト16
　ダブルス
　　須藤・青木組　ベスト8
　　松野・石黒組　ベスト8

空手道部

個人組手　松本　4回戦敗退
　宮入　3回戦敗退
　土屋　2回戦敗退
団体組手　1回戦　3−2　館林
　2回戦　1−4　前西

陸上競技部

5000mW長幡　樹　1位
(関東大会出場)
　山口裕毅　8位
1500m　小杉　健　8位
800m　小杉　健　8位

山岳部

一部　10位

平成15年度 翠巒体育会収支計算書 自平成15年4月1日　至平成16年3月31日

	科目	金額	摘要
収入の部	年会費収入	350,000	14部
	同窓会補助金	300,000	高崎高校同窓会
	広告費収入	180,000	12部
	親睦会収入	220,000	H15.6.27
	ゴルフ大会収入	310,300	H15.8.24　ローズベイカントリークラブ
	バザー収入	59,853	H15.5.19
	雑収入	184,000	祝金、会議個人負担
	受取利息	19	群馬銀行
	(当期収入合計)	(1,604,172)	
	前期繰越収支差額	985,550	
	収入の部合計	2,589,722	
支出の部	総会・親睦会費	252,332	H15.6.27　高崎ビューホテル
	現役補助金	135,000	関東大会、インターハイ出場の運動部
	会報発行費	295,050	翠巒第22号
	ゴルフコンペ費	303,730	H15.8.24　ローズベイカントリークラブ
	慶弔見舞金	72,500	
	消耗品費	17,640	
	事務用品・通信費	75,378	
	会議運営費	269,975	編集会議、役員会議等
	銀行振込手数料	2,415	群馬銀行
	(当期支出合計)	(1,424,020)	
	特別会計拠出金	500,000	特別会計への拠出金
	支出の部合計	1,924,020	
	(収支差額)	(△319,848)	(当期収入合計)−(当期支出合計)−特別会計拠出金
	次期繰越収支差額	665,702	収入の部合計−支出の部合計

財産目録 平成16年3月31日現在

	科目	金額	摘要
資産の部	現金	0	現金手許有高
	預金	665,702	群馬銀行高崎栄町 (普)#0783238 一般会計分
	預金	500,000	群馬銀行高崎西　(普)#0593363 特別会計分
	正味財産	1,165,702	

口座振込ご利用の場合は、下記口座までお願い致します。 スイランタイイクカイ　カイケイ　ヨシイショウイチ
群馬銀行 高崎栄町支店 普通預金0783238 翠巒体育会 会計 吉井章一

高崎高校　ソフトテニス部 OB会　会長 下山　万吉雄 (63期)

翠巒体育会役員名簿

◎は各部ＯＢ会長。（平成 16. 6. 25）

	氏　名	期	学校側顧問
会　長（バレーボール）	高橋　浩生	78	学　校　長・栗原　倢
副会長（陸　上）	◎後藤　次一	68	教　　頭・飯塚　光
〃（情報）（卓　球）	堤　　康高	71	運動部長・坂田　和文
〃　（ソフトテニス）	塚越　章司	58	
〃（編集局長）（バスケット）	橋爪　良真	75	
〃　（ラグビー）	◎関根　正志	70	
〃　（サッカー）	◎阿久澤　茂	69	
〃（会計）（水　泳）	◎永尾　俊弘	70	
〃　（柔　道）	庭田登志男	68	
〃　（剣　道）	◎横田　　茂	55	
〃　（野　球）	清水　正郎	75	
〃　（応　援）	丸山　功一	64	
〃　（硬式テニス）	◎齋藤　英敏	83	
会　計（山　岳）	吉井　章一	78	
監　査（サッカー）	佐藤　義夫	58	
〃　（野　球）	◎川手　義昭	62	
顧　問（サッカー）	国峯善次郎	50	
〃　（バスケット）	岩田　武雄	53	
〃　（卓　球）	山口　正敏	58	
〃　（バスケット）	清水　貞保	30	
理事　陸　　上	谷　　一行	70	高橋賢作・茂原賢三・田中雅徳
	坂本　正樹	71	
	山口　人巳	83	
卓　　球	◎深沢　　昇	57	内田　均・濱野雅樹
	根岸　博昭	68	
	角倉　信久	69	
ソフトテニス	◎下山万吉雄	63	井坂　奨・柴崎浩明・丸橋　覚
	丸山　　博	68	
バスケット	橋爪　良真	75	長竹　潤・篠原浩一・澁谷正章
	榊原　一好	79	
	佐藤　弘之	81	
バレーボール	坂本　　弘	87	塚本泰弘・茂木　豊・宮川淳吾
	長谷川裕二	93	
ラグビー	秋山　雅巳	70	船戸　渉・大野俊彦・西澤　南
	上羽　正弘	72	中野憲一
	須永　信夫	74	
サッカー	赤羽　英光	73	坂田和文・塩原秋雄・丸山直樹・川崎洋一
	清野　哲雄	74	
水　　泳	新谷　恭一	54	橋本晃一・諏訪賢一
	斎藤　全賢	75	
柔　　道	◎関口　茂樹	63	鳥居吉二・木村高己・関口博士
	東瀬　朝紀	69	
	寺沢　保夫	83	
剣　　道	藤木　正行	69	戸塚泰聖・渡辺正一・萩原弘和
	飯野　一彦	74	
	小池　誠一	77	
野　　球	清水　正郎	75	大須賀誠一・毒島健一・上原弘充・濱野雅樹
	小林　　均	77	
応　　援	◎秋山　賢治	74	川崎洋一・間々田功
	鈴木　伸生	80	
硬式テニス	左近　晃志	84	中村健一・塚越　究・松本正志
	石田　光成	91	
山　　岳	松本　基志	77	森泉孝行・齊藤敬一・小林政幸・丸山直樹
スキー・スケート			小林政幸・猿谷亮司
弓　　道			天野正明・間々田功
空　手　道			工藤正宏・関口博士・曽根秀明
軟式野球			関口　理・関根正弘・山田　樞
バドミントン			三浦昭久・宮崎秀明
事務局 局長（柔道）	鳥居　吉二	73	
（陸　上）	茂原　賢三	89	
（バレーボール）	岩丸　高明	82	
（応　援）	富田　和弘	85	
バスケット	◎林　　進一	72	
バレーボール	◎菊地　俊二	52	
山　　岳	◎清水　正爾	55	

翠巒体育会ホームページアドレス　http://www5.wind.ne.jp/t2suiran/

編集後記

［橋爪・75期］　この翠巒体育の題字は何のフォントかという話をしていたら、実は中野敏宗元校長の字でありました。ちょうど私たち75期が高々へ入学したときに一緒に赴任されてきました。「恥ずかしながら帰ってきました。」と28年ぶりにグアムから帰還した元日本兵横井庄一氏に似ていることから、「横井さん」と呼ばれていました。あだ名で呼ばれても手を振って応える粋で優しい校長先生でした。自由でのんびりした時代でもありました。

　あれから30年近く経ち中野先生も先年鬼籍に入られました。私たち75期も来年度は同窓会新年会の幹事期となります。ぼちぼち人生の折り返し地点のようなものでしょうか。翠巒体育も高橋新会長となりました。私は名前のみの編集局長です。オリンピックも原点のアテネです。すべてが転換期のような気分です。高々へ入ったころのように初々しい気持で後半生へ臨みたいと思います。